



トピックス

平成 29 年 10 月 13 日

NO.49



三匹獅子舞
すごかった！

三匹獅子舞（さんびきししまい）

上本郷の三匹獅子舞は、11月8日（日）の昼に風早神社、夜に明治神社で行われました。上本郷の獅子舞は、五穀豊穡のお祝いとして行われているそうです。獅子舞始まりの由来は、和名ヶ谷地区から上本郷地区に養子にきた人が広めたという古老の話があるそうですが、文献等に記載されたものがあるわけではないので、はっきりしたことは不明だそうです。ストーリーは、「オオジシ」と「ナカジシ」が「メジシ」を取り合うというのが基本でしょうか。見ていて違ったのは、日枝神社（和名ヶ谷）では、1匹サルが付いて登場し尻尾を振りまわしながら観客を追いかけるような場面がありましたが、風早神社（上本郷）では、サルが2匹いましたが、面を被らずに頭の横に付けて、獅子の世話や場内整理の役割を担っていました。こんなところも大橋の胡録神社の三匹獅子舞を含めて、3箇所を比べながら見るのもよいのではないのでしょうか。是非、まだ足を運んでない方は、来年に勇壮な舞を一度ご覧になってはいかがでしょうか。

※参考文献「松戸市立博物館調査報告書1 千葉県松戸市の三匹獅子舞」



学校あれこれ物語 ～牛乳編～



現在も毎日給食のお盆には「コーシン牛乳」が出ていますが、平成21年度より数年間だけパッケージが変わりました。早速どうして変わったのか「コーシン牛乳」に電話で問い合わせると、新たなイメージの給食用牛乳をめざしているという回答でありました。

さて、その「新たなイメージの給食用牛乳」とは、何でしょうか？

新しいパッケージをみると、あら不思議。この色と絵柄は何～？全体が赤色で、なぜか十二支が描かれている。干支は、何を意味するのか学校でも話題になったので、コーシン乳業（八千代工場）に問い合わせしてみました。回答は、次の会話からわかる通りでした。

Aさん：「ねえ、Bさん。何で水色から赤色になって十二支が入ったの？」

Bさん：「十二支って、あの動物の？」

Aさん：「十二支は、12年で1周するから、コーシンの120周年と関係があるのかな？」

Cさん：「コーシン牛乳だから干支の中の牛と関係があるのかもしれないね？」

Dさん：「えーと？干支は子、牛、虎……と順番通りで並んでいるしね！何だろうね！」

こんな会話が至る所で発生すれば、このデザインを考えた人は、心の中で『やったー！』と思うのでは。

なぜなら、このデザインは、見た人が身近な十二支を通して、周囲の人との会話を増やしてもらえればというねらいで描かれたのです。つまり、干支のデザインに変えて、みんなの話題にしてほしかったのです。「事実には実に面白い」です。

しかし、あまり好評でなかったため、数年後に現在も使用している女の子「ピロコ」の絵柄に戻したそうです。こんなこともあるんですね。

